

令和元年度
第2回香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会議事録（概要）

次 第

日 時：令和2年2月5日（水）午後2時～午後3時45分

場 所：香美市役所5階委員会室3

出席者：まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員 10名

商工観光課長、定住推進課長、健康介護支援課長、教育振興課3名、農林課2名、
企画財政課3名

欠席者：6名

会長：清原泰治委員

各担当課出席職員自己紹介

会長あいさつ

【議 題】

1. 第2期香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について

事務局より「第1回審議会からの意見と回答」の説明を行う。

・質疑応答なし

事務局より第2期香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について説明を行う

・前回、県の施策がまだ明確ではないので、その辺りも見据えて必要であれば修正するということがあったが、その後の情報は？

→国は「新しい時代の流れを力にする」と「多様な人材の活躍を推進する」という横断的な目標を掲げて、新たな視点を設定して事業展開するとしているが、高知県ではまだそこまでの計画策定はできておらず、あくまでも視点的な部分しか定まっていない。

素案ができてパブリックコメントを実施している自治体を見る限りでは、横断的な目標を設定しているところはない。Society5.0やSDGsを入れているところは多少ある。県内ではパブリックコメントの実施は現在高知市のみで、新しい視点は掲載されていない。

→現時点ではあまり手がかりがない状況だが、策定までにもう1回審議会があり、1年ごとに見直しも行うので、Society5.0やSDGsや、前回ご指摘いただいた「誰もが活躍できる地域社会をつくる」の項目など直接的に入れられることがあれば、修正の段階で入れていくという考え方になるのでは。（清原会長）

<第2章>

・P4 「短期・中期・長期の目標人口」の表の短期目標が「2020年」で「5年後の人口」となっているが、これは「2025年」ではないか。

→第1期の計画をそのまま掲載しており、前回の計画策定時から言って「5年後」の「2020

年」の人口であり、概ね短期目標は達成できている。短期目標の表記は修正する。

- ・第1期の短期目標のままなので、「2025年」とするか、2020年の実数を入れるなどしないと整合性がとれないのでは。

→短期目標についても人口ビジョンで年次ごとに定めているので、その表に従って短期目標を掲げるようにしたい。

→2025年は24,665人という推計値が出ている。

- ・数値は国勢調査か住民基本台帳人口か。

→国勢調査である。

<基本目標1>

- ・P6 「土佐打刃物や伝統工芸品であるフラフ…」は、法律上では土佐打刃物は国の伝統工芸品で、フラフは県の伝統的特産品なので表現の整理をするべき。

→整理する。

- ・P6 KPI「地場産業後継者数：8件」は鍛冶屋創生塾の卒業生の定着と思われるが、独立した人数か？「8件」と書くと事業者数に見えるので、「人」の方が良いのでは。

→5年で12名の卒業を見込んでおり、鍛冶屋創生塾の取組の目標が60%以上なので、卒業生の人数に2/3をかけて8名としている。

- ・「後継者数」なので「8人」に修正で良いか。また、持ち帰って検討してもらえれば。

- ・P6 フラフについて項目としては掲げているが、具体的な事業が入っていない。

→フラフの後継者につながる数字が把握できておらず、あいまいな表現になっている。

- ・市長から新しいフラフの商品化をしていくという話を聞いたが、KPIの「対象特産品数：5年間で5件」にフラフの新商品が入っているのではないのか。

→香美市特産品振興補助金を基にした数字で、フラフに直結した数字ではない。

- ・大事な地場産業なので今後検討してもらえれば。

→伝統産業という大きな括りの中で取組を進めていく。

→ものづくり会議の中にフラフの分科会があり、去年フラフのフォトコンテストを行い、44作品位応募があり、大賞の方のフラフの写真のポロシャツを作成し、職員やいろんな人に着てもらってPRなどを行っている。また、5月に公共施設などでフラフをたなびかせる風景を見てもらうなどフラフを盛り上げる取組を行っている。

- ・フラフの後継者育成事業に関連して相談があり、技術を習得したい、やってみたいという方がいない訳ではない。需要がないと後継者を育てるのは難しい。土佐打刃物に関しては和包丁のニーズが日本に限らず外国でもあるので、鍛冶屋創生塾で育った方が生計を立てることもできるため、もう少し長い目で見ていった方が良いのでは。

- ・P7 「光通信を活用したIT企業の誘致」はITサービスやIT技術そのものを生業とする企業の誘致なのか、Society5.0などの最新のIoTやAIの技術を活用して何か製品を作ったり、農業に活用して農業事業を行うのも含まれているのか。

→ITだけではなく、工業団地ではない事務系のオフィスという大きい括りで捉えている。

- ・「光通信や最新ITを活用した企業の誘致」の方がターゲットを広げられ、Society5.0もあてはまり、商店街だけでなく、ITを活用した農業などの方向性も含められるのでは。

・再度検討をお願いしたい。

・P7 KPI「主要4施設観光入込客数」の「主要4施設」とは。

→龍河洞、アンパンマンミュージアム、べふ峡温泉、シックスダイアリーホテルである。

・「R1年 291,829人→R6年 300,000人」の数値の根拠は？

→龍河洞が前年から2万数千人増加して、去年1年間で数年振りに12万人を突破し、1年後はさらに1万人アップを目指しており、その数字などを根拠にしている。

・全体の数字では増えていく設定だが、アンパンマンミュージアムとシックスダイアリーホテルは減り加減だと思われ、中身は龍河洞に乗っかかっているところがあるのでは。それぞれの地域の特色を活かした観光の振興という視点を持って取り組んでほしい。

・シックスダイアリーホテルの集客数は増えているのか。

→去年の春からは順調に増えてきている。

・P7 体験型観光が龍河洞のことしか書かれていないが、昔からある暮らしをそのまま体験する里山体験などが各地で人気が出ており、そういう視点も入れて、物部の豊富な観光資源を磨き上げていくと地域の人達の出番につながるため、中山間地域の特性を活かした観光を集落活動センターも活用しながら行っていくと良いのでは。

・P7 「空き店舗等利活用事業」で、近年、山田の商店街に新規開店の店が増えてきているが、同時に空き店舗がなくなっており、せっかく助成金があるのに空き店舗がないから使えないという状況なので、空き店舗の掘り起こしも事業内容に加えてはどうか。

→空き物件はあっても、古くて使える物件がないなど難しい現状だが、ふらっと中町の地域支援員が物件の調査を行っており、情報の提供はできる状況である。

・P8 KPI「新規林業従事者：5年間で25人」は、事業者が雇える状況を把握した数字か。

→香美市内の2事業者の従業員の年齢構成を調査しており、例えば65歳を定年とした場合、5年後に25人減る結果となっている。定年が特に決まっている訳ではないので、本当に25人減るかわからないが、今年度から森林環境譲与税が導入され、間伐などは今以上に進めていかなければならない状況で、従業員が減っていくのは困るので、実際に雇用できるかわからないが、それを目標にしたいということでこの数字にしている。

・P8 「企業立地の推進」でこれまでの5年間の取組で成果につながらなかったが、今回も同じ内容になっているので、例えばKPIを人数ではなく、可能性がある企業への営業の件数などにしてみるのはいかがでしょうか。

→参考にさせていただきたい。

<基本目標2>

・P10 KPI「学生の活動人数：年間94人以上」の数値の根拠は？

→来年度以降団体数が減り、3団体に対する事業になる可能性が非常に高いため、この数字になっている。

<基本目標3>

・P13 KPI「全国学力・学習状況調査」を設定しているが、学力テストの活用の仕方とし

て、地方行政の計画の評価指標に用いることの妥当性はあるのか。

→比較のため、全国的に行っている「全国学力・学習状況調査」を持ってきている。

・他の自治体の計画にも載り、県も違和感なく受け取っており、学力テストの活用の仕方として当たり前に使っているが、実際にはどうなのか。

→香美市は教育に力を入れており、教育環境の充実が転入の理由の1つにもなっている。KPIの設定としては合理的なように思われる。

・学力テストのKPIの設定が順位を何番にするかという出し方ではないが、「平均プラス5P」などが結果としてそのようなことに繋がりがねないという懸念がある。

・修正ということではないが、一度KPIとしてふさわしいかどうか検討してもらえれば。

・バカロレア教育など他とは違う教育を取り入れているため、子ども達の自発力が育っているかなど他とは違う視点を入れても良いのでは。例えば、実際に子ども達が教育環境でどのように感じているかなど意見を聞いてみてはどうか。

・「教育環境の充実」を学力だけで捉えるのはどうなのか。他市町村も参考にしつつ、もう少し香美市らしさが出て良い項目なのでは。次回までにお願ひする。

(事務局より)

P12 KPI「児童医療費助成事業の対象範囲の維持」の設定について、本部会で「予算が確保できた時点で目標達成となるためKPIとして妥当か」という意見があり、他市町村では子育て支援の満足度や対象件数などを設定しているが、何か良い案がないか意見を聞かせてほしい。

・「対象範囲の拡大」とし、現在、高知市以外は15歳までにはなっているので、18歳まで拡大してはどうか。現在できていない18歳までというのを掲げて、5年間で実現させる。

・その他の意見なし。

<基本目標4>

・P16 KPI「高知工科大学実習生の受入」は市役所も含め、民間企業の受入という意味か。

→市役所の受入である。先日、工科大生のR元年度の香美市の法人への就職内定者数を調べたところ1名とのことで、香美市役所への1名と思われる。

・テクノパークの山崎技研へも就職しているのでは。

→単年度調査のため把握できていない。

・大学のあるまちはとても幸せなまちだと思うので、ぜひ密に連携して共存共栄になっていくと良い。

・アクションプランP8 「小中高等学校と大学の連携の推進」の基準値「高知工科大学への香美市出身の進学人数7人」は、山田高校卒業生の進学者数か。

→山田高校卒業生かどうかは不明だが、香美市に住民票がある人の進学者数である。

・前回「工科大の卒業生が定住することがこの戦略なのでは」という質問をしたが、総務省が出した5歳刻みの人口移動によると、全体では社会増だが、20～24歳が減っており、おそらく工科大生が転出したと予測され、より具体的に踏み込んだ対策や施策を掲げるべきでは。その年齢層がキーポイントで、大学があるまちの活かし方をどうするか。

- ・2年前位に工科大学と連携して地域担い手セミナーを開催し、1名が高知市にIターン就職しているの、何らかのつながりを持っておくべきでは。

→Uターンについては、県の商工労働部が事前に登録している大学生や親御さんを対象に企業セミナーなどを開催したり、香美市でも東京や大阪での移住相談会を企業と一緒に開催している。香美市へのUターンが今2割位なので、3、4割に上げていきたい。

- ・追加で書き込めることがあれば検討してもらいたい。

- ・P14 集落活動センターの設立について、県内では集落活動センターができたのは良いが、息切れしているところもいくつかあると聞いており、県全体の動きの中で3箇所が適当なのか、可能性はあるが少なめに設定しているのか。

→現在、美良布と平山に集落活動センターがある。美良布の集活センターには7つ位の部会があり、茶作りプロジェクトや蕪生まいこのかるかんやバル部でおきやくをしたり、ゆずジュースの商品化を行うなど比較的活発に行っている。平山も元々県立大の学生にたくさん入っていただき、ほとと平山を中心にいろいろ行っており、R2年度には倉庫を建てて加工場とボルダリングの整備などを考えている。3箇所目は物部の設立を目指して、若い方やユズ部会や市議会議員などで何回か意見交換会を開催しており、今年か来年辺りにできればと考えている。今後もしいろいろ出てきたら検討するが、とりあえず3箇所ということにしている。

- ・P15 KPI「自主防災組織率：100%」は自治会単位での組織率なのか。自治会に入っていない方がたくさんおり、実際災害が起こった時にその方達はどうするのか。

→自治会単位である。自治会に入っている方は防災会に必ず入っていると思われるが、自治会に入っていない方も防災会に入っている方が最近増えてきている。

- ・防災会に入っていない市民が相当数おり、この方達を視野の外に持っていったいいのか。100%にするとそこで止まってしまうので、大変危険なことである。

→自治会に加入していない要援護者は福祉事務所で把握しているが、自治会に加入していない方の対策をいかに行うかということについても確認したい。

- ・自治会に入っていた要援護者の方が高齢を理由に退会する場合もあり、共助しないといけない方が出ていってしまう現状もあるため、その点についても検討してもらいたい。

- ・防災士の資格を取るために受講の申込みをしたところ抽選に外れてしまったが、目標と対策はどうなのか。

→抽選で外れた方は、次の時に優先的に受講できると聞いている。

- ・香美市では防災士の連絡協議会が最近立ち上がったが、防災士を作るのも大事だが、その先につながることも大事である。

○今後はパブリックコメントを実施（2/10～2/28）し、今日の意見とパブコメの意見が反映された最終案が次回の審議会承認されたら、議会での説明があり、議会で意見等が出た場合は会長一任ということで修正し、成案となる。